

2011 年度氷河情報センター分科会報告

雪氷研究大会（2011・長岡）において、氷河情報センターの分科会セッションおよび総会を開催した。分科会セッションでは、ブータン・モンゴル・中国の氷河調査・研究の紹介および共同研究先や海外機関の研究動向に関して、3件の講演と質疑応答が行われた。引き続き行われた総会では、活動・会計の報告、活動方針・予算案の承認を行った。

日時：9月21日（水）14：30-16：30（総会15：55-16：30）

場所：ハイブ長岡（B会場）

分科会セッション：

近年、日本の研究者が精力的に行っている世界の氷河調査の中で、ブータン・モンゴル・中国の氷河を取り上げ、現地調査の内容や共同研究先や海外機関の研究動向について紹介していただいた。

講演は、最初に坂井亜規子氏（名古屋大学環境学研究科）に「ブータンのフィールド事情」と題して、現在ブータンで行われているプロジェクトと調査事情について説明していただいた。近年のアジア高山域では、氷河湖・氷河インベントリ・衛星を用いた表面低下や流速・氷河流出の研究などが盛んに行われている。ブータンにおいては、現在、地質鉱山局（Department of Geology and Mines）をカウンターパートとして、JICA/JSTによるGLOFプロジェクトが行われている。ブータンでは、国民のためになる研究でなければ入国は難しく、調査期間も9月から10月に限られる等の情報をお話していただいた。

続いて、紺屋恵子氏（海洋研究開発機構）に「モンゴル・アルタイの研究動向と研究指標」と題して、モンゴル・アルタイ山脈西端Tavan-Bogd地域Tsambagarav山塊における氷河調査と調査事情および他国の調査状況について紹介していただいた。

JAMSTECでは、2003年よりIMH（Institute of Meteorology and Hydrology）をカウンターパートとして、同地域の氷河において、質量収支・流動・氷厚・気象などの観測を行ってきた。また、スイスとロシアによる共同のアイスコア掘削、韓国によるアイスコア掘削前の予察といった他国の調査状況についても紹介していただいた。

最後に、竹内望氏（千葉大学理学研究科）に「中国科学院天山氷河観測所50周年記念シンポジウム参加報告と近年の中国北西域氷河研究動向」と題して、中国・天山山脈西端ウルムチNo.1氷河調査と、2011年8月に開催された記念シンポジウムについて紹介していただいた。近年、中国では観測対象氷河および観測所が次々と新設されているとい

う報告とともに、天山氷河観測所および記念シンポジウム開催期間中の見学で訪れたKanasに新設された観測所の紹介をしていただいた。

限られた時間のセッションではあったが、ブータン・モンゴル・中国の氷河調査・研究の紹介および共同研究先や海外機関の研究動向について、まとまった話を聞く機会を提供でき、有意義なセッションとすることができた。今後も氷河情報センターが情報交換の場として活用されることが期待されるセッションであった。

総会：

1) 2010-11年度活動報告

1. 氷河情報センターニュースNo.33の編集・発行（「雪氷」73巻3号，177-184）
2. 氷河情報センターHPの更新
3. 2011年度分科会セッションの企画・開催
4. 2011年度総会の実施

2) 2010年度会計報告

3) 2011-12年度活動計画の承認

1. 2012年度総会の実施
2. 氷河情報センターニュースの編集・発行
3. ミニシンポジウム（分科会セッション）企画・開催
4. 氷河情報センターHPの更新

4) 2011年度予算案の承認

5) その他

1. センター活動支援基金の事業実施状況について
2. 雪氷辞典の改訂について
3. 氷河情報センターHP更新の紹介

文責：

岡本祥子（名古屋大学大学院環境学研究科）

中澤文男（新領域融合研究センター/国立極地研究所）